

地域防災・防災教育の実践

子どもから大人まで、地域とともに学ぶ

防災を入口に、地域で学ぶ

社会教育士・防災士として、子どもから大人まで幅広い世代を対象に、防災講座、地域防災活動、まち歩き、体験型学習などを実践しています。知識を一方的に伝えるだけでなく、地域の実情を知り、自分で考え、対話し、行動につなげる学びを大切にしています。

防災まち歩き・地域を知る学び

実際に地域を歩き、災害時に危険となる場所、避難先、AEDなどを確認します。身近な地域を自分の目で見ること、ハザードマップの情報と実際のまちの様子を結び付け、「自分たちの地域では何ができるか」を考えます。

防災マップづくり・学びを地域へ

中高生が主体となって地域を調べ、防災マップを作成。初版・第2版を合わせて約6,000部を地域に配布し、学んだ成果を地域へ還元しています。活動を通じて、子ども・若者が地域の担い手として関わる機会をつくっています。

防災講座・体験型学習

地域や学校等のニーズに応じ、防災の基礎、災害への備え、非常用トイレ、応急処置、停電時のあかりなど、身近なテーマを取り上げます。講義だけでなく、体験やワークショップを取り入れ、幅広い年代が参加しやすい学びを目指します。

学校・地域・世代をつなぐ

学校での防災教育と地域での防災活動をつなぎ、子どもから大人まで、それぞれの経験や知識を生かして学び合える場づくりを進めています。防災をきっかけに、地域への関心やつながりを育てることを目指しています。